



今年の憲法記念日(五月三日)、市民意見広告運動は、沖縄から北海道までの文字通り全国から七七七六の個人と団体の賛同を得て、意見広告「九条実現―憲法9条を変えることにみんなで反対しましょう・改憲のための国民投票法案の成立をみんなで阻止しましょう―」を『朝日新聞』と『毎日新聞』両紙の全国版に一面全部を使って掲載しました。本誌の読者の皆さんをはじめ、広告の掲載を実現するために協力して下さった皆さんに心から厚く御礼申し上げます。

まだまだ出せる 《民衆の平和力》 5・3「九条実現」意見広告に大反響!

井上澄夫

市民意見広告運動は二〇〇三年五月以来、今回を含めて四度にわたり、全国紙や地方紙に意見広告を掲載してきました。しかしその中で今回は、賛同伴数(約八九〇〇)、賛同者・賛同団体数(七七七六、これは賛同の期限だった四月十六日現在の数でそれ以降も賛同が相次ぎました)、賛同金総額(三二五〇万円)のいずれも最高を記録しました。広告掲載の規模についても同様です。一つの市民運動が全国紙二紙の全国版に一面全面の広告を掲載したのはこれまでに例がありません。

これほどの規模の意見広告の掲載が実現したのは、まず何より改憲の足音が急速に近づいている、極度に危うい政治情勢に非常に多くの人が危機感を募らせているからだと思えます。しかしマスメディアがどんどん右傾化している現状では、市民一人ひとりが自分の声を反映する場は著しく狭められています。ですから意見広告運動の存在を知ればすぐ参加を求める気運は満ちあふれていると言っていると思います。実際、五

月三日早朝から数日間、事務局の二台の電話は鳴りつ放しで、かかってくる電話の八割は次期運動への参加の仕方の問い合わせでした。広告で紹介した「殺すな」バッジの注文や『改憲』運動通信」0号送付の申し込みも相次ぎスタッフは息つく暇もないほど対応に追われました。

もう一つ大切なことがあります。それは四度にわたる運動の持続の中で、反戦の思いを《世論に訴え世論を変える方法》として意見広告が大きな意味を持っていることが広く理解されるようになってきたということです。今回全国に送付された振替用紙付きのチラシは二万四千枚でこの数も過去最高ですが、これだけのチラシを手渡しや郵送で配布する人が無数にいたからこそ莫大な賛同金が寄せられたのです。昨年十月初めから今年四月中旬の賛同の期限まで事務局にはFAXや電話、メールでチラシの送付要請が休みなく連日相次ぎました。それに対応してチラシを送り続けたのは今回運動に参加した十数名のボランティアの皆さんでした。膨大な数の賛同者・賛同団体名簿をパソコン数台を使って作成し

続けたのもボランティアの皆さんでした。

チラシの大量配布が可能になったのは、「自分が動かないと広告の掲載は実現しない。9条改憲は阻止できない」と確信する市民主体が全国に無数に生まれたからです。自宅で闘病中の人や入院中の人から友人・知人に手紙を添えてチラシを送るというケースも少なくありませんでした。職場や学校、デモ・集会などでチラシが配布され、それを受け取った人がさらにチラシの送付を求めてくるといふ動きが無限運動のように繰り返され広がっていきました。意見広告運動には、出産や肉親の介護、病気、障害など様々な事情でデモや集会に参加できない人も参加できます。その点はこの運動の強みです。

今回の意見広告運動は「反改憲・反戦の短

〈憲法改悪反対〉反戦歌壇

(第一次選考作品、広告に掲載した作品を除く)

偽りに偽り重ね半世紀ついに居直り三軍闊歩

寺井拓也 (田辺市)

戦(いくさ)世は千代に八千代にただれ人間(ひと)の傷あと癒えず膿の出つくすまで

《君が代の替え歌》 野瀬吉夫 (赤穂市)

お前もか儲かるならば改憲か

天野義裕 (岡崎市)

フルー ज्याの虐殺に吾を知らぬ間に加担させたる小泉憎し

四方公代 (大阪市)

歌・狂歌・川柳」を公募しました。その結果、全国から二五九首もの作品が寄せられました。作家の中山千夏さんと詩人の石川逸子さんの選考により六首が広告に掲載されましたが、作品はどれも好評で、おそらくそれに刺激されたのでしょうか、まだ作品が寄せられています。賛同の件数が余りに多かったので名簿の掲載に多くのスペースを割くことになり、作品の掲載は六首に限定せざるを得ませんでした。そこで中山さんと石川さんによる第一次選考で選ばれた作品を左の欄に紹介します。

「九条実現」という表現について

今回の運動は昨年の十月に始まり七カ月も続きましたので、途中でいかに中だるみを避けるかが課題でした。そこで今年二月、ポスター

ターを作りました。その作成にあたって、これまでずっとボランティアとして広告の紙面作りを担当して下さっているデザイナーの鈴木一誌(すずき・ひとし)さんは「守る、守れ」という受け身の表現ではなく積極的な表現のメインコピーを考えてほしいと提案しました。そこで「九条実現」と大書したポスターが出来上がりました(B2版とA4版)。そのポスターは子どもも関心を寄せる、温かみがある、やさしく力強いと、非常に好評で、個人宅の玄関先、労働組合の事務所や寺院の門前、教会の内部などに掲示され、それを見た人が賛同金を送ってくるという効果を生みました。

ですから意見広告の紙面作りにあたって「九条実現」をドカンと大書することのためにいろいろありませんでした。この表現は小泉政

小泉は大野は我子(あこ)を前線に送ることなく安全を説く
伊藤法子 (所沢市)

戦後でも戦前でもなし今まさに非戦の国は戦時なりけり
成田 強 (江別市)

幼き日父の戦死を告げし母昨夜の夢に再び頭(た)たす
鈴木 広 (山形県)

わたしなぜこんなめにあうの傷つきし少女の瞳に不変の問いが
仲川真紀 (大阪市)

おかあさん死にゆく兵の口をつき出(いで)

し言葉はただおかあさん
真田かずこ (京田辺市)

児ら挙ぐる遊びの声の届くとき世の行く先に心を砕く
諸岡研介 (大牟田市)

曇れども五月の空に旗を立つ
石黒比呂秋 (名古屋市中)

赤紙が携帯に来る新世紀
磯谷佳世子 (東京都)

おお声で千代に八千代に9条こそ
北阪英一 (河内長野市)

高山知之 (新潟市)

権への要求、私たち自身が九条を実現するという決意の表明、あるいはこれまで九条を実現する努力を怠ってきたことへの反省など様々に受け取られています。しかしそれら多様な解釈は、今こそ九条を実現する努力が求められているという思いで一致していると思います。この四文字がまず目に飛び込んできて感動したという声がたくさん寄せられています。それは攻勢的な憲法改悪反対運動の広がり求められているということの証でしょう。

まだまだ発揮されていない《民衆の平和力》

去る四月、衆参両院の憲法調査会は改憲を想定した最終報告書をまとめました。国民投票法案の審議を可能にする国会法の改悪が迫りつつあり、自民党は立党五〇年にあたる今秋十一月一日に新憲法の草案を発表します。憲法改悪の動きは加速しています。しかし改憲反対運動にはまだまだごく一部の人がしか参加していません。これから無数の運動主体が生まれ新たな動きが次々に奔出しないうと改憲の動きを押しとどめることはできません。《民衆の平和力》はまだ十分掘り起こされていないと言わねばなりません。

今年の五月三日、全国紙と地方紙に掲載された改憲意見広告が最低でも二五あったと思われまます（調査中です）。この数も前代未聞で今春それぞれに響き合う意見広告はまさに《花盛り》の感がありました。むしろ意見広

告は改憲反対運動の一つの手段にすぎず、《民衆の平和力》を存分に噴出させることは諸反改憲運動の共通の課題です。

今回の私たちの広告には、改憲派の人びとや右翼団体が激して反応し、電話やFAXで抗議や罵詈雑言が数多く寄せられました。しかしそれはかえってこの広告の大きな政治的な意味を明らかにしています。「九条実現」広告は、憲法九条を変えることに反対する市民の強い意思の存在を世論にアピールするともに、憲法改悪に反対する人びとを励まし共に手を携える決意をいよいよ強化することに役立っていると思います。

広告に触れて元自衛官が好意的な意見をのべたり、現役自衛官の家族が電話で賛意を

表明するということもありました。そのように広告は対話のきっかけにもなっています。率直に思いをのべあい意見交換と交流によって思想豊かで強力な改憲反対パワーが形成されねばなりません。市民意見広告運動はこれからもいっそう努力を続けようと思えます。

来年の憲法記念日には四七都道府県すべての地方紙に反改憲広告が掲載される、そんなすばらしいことが起きよう、あなたもあなたが住む地域で努力してみませんか。魯迅は「歩く人が多くなれば、それが道になるのだ」とのべています。

（いのうえ・すみお、市民意見広告運動・事務局）
【編集部より】本『ニュース』90号には、「付録」として、この意見広告の紙面別刷を同封します。

「イラク・ブーメラン意見広告プロジェクト」報告

高橋 建 吉

この運動の報告をさせていただきます。

＜「BOMBERANG NET」とイラクへの思い＞

国家間の歪みに影響されず、世界の市民の有機的な繋がりによって、あらゆる戦争と侵略行為の終結と予防などを目指している若者のネットワーク「BOMBERANG NET」は、ブッシュ米大統領によって「イラクでの大規模戦闘終結宣言」からちょうど二年となる今年五月一日、中東地域の有力紙『アルハヤート』に、意見広告を掲載した。イラクの現状を踏まえ、

二〇〇三年三月一九日、イラク戦争がアメリカ主導で一方的に開始された。当初から、この戦争の不当性は国際法的にも人道的にも明らかだった。しかし、日本政府はアメリカのイラク攻撃をいち早く支持し、また五〇億